

## 第14回 移送サービス 研究協議会 於 東京

三月十日(日) 東京都の工科大学において、第十四回移送サービス研究協議会が開催されました。これは東京ボランティア市民活動センターと東京ハンディキャップ連絡会が主催しているもので、全国から三百数十名の移送サービスの関係者が集まりました。

「さわやか」は昨年から参加させていただいております。今年には岡副会長、寄友、山田の三人で参加しました。その中で八つの分科会(表1参照)とシンポジウムがあり、第1、第2、第5分科会とシンポジウムに参加しました。

(岐路に立つ移送サービスのこれからを描く)と題して各地の市民活動団体や社会福祉協議会の移送サービスの関係者などが集まり法的な問題点や市民活動としての移送サービスの在り方について考えて行くというものでした。また、移送サービスが地域のなかでどのような役割を果たしているのか、行政や企業とどのように連携を取りながら展開して行くべきなのかとうことを利用者、病院関係者など、それぞれの立場から各分科会で意見交換がなされました。

また、近くの新宿中央公園の特設会場では、福祉車両や各自動車メーカーによる車輛展示も行われていました。

病院通院、そのあり方を考えるというテーマで始まった第二分科会は神奈川リハビリ研究研修所の藤井直人氏と、埼玉県、みさと健和クリニック事務長の横内弘信氏による講演がありました。藤井氏はカナダの移送サービスのシステムの紹介と日本国内のシステムとの比較などについて話をされました。また、横内氏は九八年の全国の透析患者に対するアンケート調査(十三万人回答)のうち約三万八千人が何らかの通院送迎を利用していただくと報告があると述べられました。地方自治体などによりタクシークケットや、公共交通機関の乗車券など補助的なものはありませんが、週三回の通院が必要な透析患者には厳しい状態です。みさと健和クリニックさんでは病院が透析患者さんの送迎をされているそうです。し

- 第1分科会 『移送サービス・運転協力者研修をすすめよう』
- 第2分科会 『病院通院、そのあり方を考える』
- 第3分科会 『「外出支援情報センター構想」を考える』
- 第4分科会 『市民と自治体がともに取り組む移送サービス』
- 第5分科会 『ニードをカタチに～移送サービス・コーディネーターの役割を考えよう』
- 第6分科会 『次世代タクシーとバスはこうなる? ユーザーの意見を反映させよう』
- 第7分科会 『移送サービスの生き残り戦略～タクシー事業化はYesか、Noか～』
- 第8分科会 『道路運送法問題と移送サービス～何が問題となっているのか～』

表1 (山田)

かし、月に約百五十万円の費用がかかると言われていました。昨今の医療費の削減により、病院における送迎サービスはなくなる恐れがあるとも言われております。そのようなことから、「さわやか」のような送迎サービスを行う事業所の役割はますます重要になってくるのではないのでしょうか。今回、参加させていただき改めて気持ちの引き締まる思いがしました。

### 《ボランティアさん紹介》

小倉北区  
岩城 勝介さん

定年されましたが「さわやか」の名前のおり、とてもさわやかで青年のようなホカホカのボランティア二ヶ月の方です。

信長の時代は人生五十年といわれていました。今日では人生七十年から八十年と、人の一生は大幅に伸び、高齢者は楽しく生活を送っています。私は昨年十二月三十一日で無事定年退職致しました。定年迄の十二年程、新日鉄構内で社員送迎バスの乗務員の仕事をしていました。定年後の夢として、車に米一俵、キャンプ道具一式を積み込み日本一周の旅がしたかったのですが、いろいろ事情があつて一八〇度方向転換しました。定年後の生き方として、今迄とは全く違う事、たとえば花屋の店員またケーキ屋の店員などと思つていました。ところがある日、同じマンションの知人に、通院介護センター「さわやか」を紹介され軽い気持ちで引き受けました。毎週木曜十三時三十分より二人の方を病院より自宅まで送りますが、車内で病状や生活ぶりなどの話を聞いて初めて知った人工透析の大変さに改めて驚いています。今さらながら健康の大切さを思い知らされました。今まで私は「ボランティア」と言う言葉が好きではありませんでした。何だか思いがあって、おしつげがましいところがみられたからです。ところが、通院介護センター「さわやか」で身近に患者さんと接し、私の微々たる手助けが少しでも役立っているとわかって、考えが少し変わってきました。これからでも医療介護の勉強をし、本当に皆さんの役に立つ事が出来るようになる事を新しい目標にしていきたいと思えます。



東京ボランティア・市民活動センター  
オリジナルデザイン煎餅



ピリっと  
唐辛子味

あしたば



ぼらせん

〔企画〕

東京ボランティア・市民活動センター

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1

〔電話〕 03-3235-1171 〔ファックス〕 03-3235-0050

〔ホームページ〕 <http://www.tvac.or.jp/>

三宅島など伊豆諸島の名産  
「明日葉」のはいった  
はじめての煎餅です。

売上の一部(100円)は  
三宅島災害・東京ボランティア支援センターの行う  
三宅島災害におけるボランティア活動の資金として  
大切にに使わせていただきます。

品名	内容	単価(税込)
ボラセンがつくった、ぼらせん  <b>ぼらせん</b>	しょうゆ味 せんべい	1枚 120円 5枚1組 600円 (ボラカード付)
	唐辛子味 せんべい	1枚 120円 5枚1組 600円 (ボラカード付)
笑顔で会おうよ、三宅島 <b>あしたばぼらせん</b> 売上の一部(1袋あたり100円)は、三宅島 災害・東京ボランティア支援センターが行 なう、三宅島災害ボランティア支援活動の 活動費の一部として使われます。	あしたば入り 特製せんべい	5枚1組 600円 ①あしたばカード ②三宅島災害・東京ボ ランティア支援セン ター活動報告 付
あたたかいボランティアさん あたたかいぼらせん茶を召し上げれ。 <b>ぼらせん茶</b>	有機煎茶(粉末) そのままお湯または冷 水にとかしてお召し上 がりがいただけます。	50g1袋500円
<b>合 計</b>		

三宅島支援せんべい

収益を使って  
避難住民ケア  
伊豆七島・三宅島(東京都  
三宅村)の噴火で、都内など  
に避難している人たちの支援  
しようと、東京ボランティア  
・市民活動センター(東京・  
飯田橋)は、三宅島特産の野  
菜、アシタバを使ったせんべ  
い「写真II」を作り、このほど  
販売を始めた。収益は三宅島  
災害支援センターに渡し、訪  
問活動などに使ってもらっ  
せんべいの表面に焼き込ま  
れたメッセージ「えがおで  
あつちよ、三宅島」は、北区  
の都営アパートに避難する人  
たちで作るボランティア会  
事務局長・有馬正美さんのデ  
ザイン。粉状にして全体にま  
ぶしたアシタバは、同じ伊豆  
七島の大島のもので、ボラン  
ティアに送ってもらった。  
製造は墨田区内のせんべい  
店。アシタバの苦みをほぐさ  
す。また「支援が必要だ」と  
呼びかけている。

(読売新聞・12月8日付朝刊)

先日の研修会に参加した時に、主催者  
の東京ボランティアセンターが、三宅  
島災害におけるボランティア活動の資  
金にあてるために「ぼらせん」とい  
おもしろいネーミングのおせんべいを  
売っているという話を聞きここに紹介  
させていただきました。

■送料(一律)-----本州内650円 / 本州以外1,000円



編集後記

先日、テレビでほっとするニュースを  
見ました。球技とはいえ格闘技ともいえ  
るラグビーをまったく耳の聞こえない選  
手同志での試合があっていました。  
審判のホイッスルで試合が進行するの  
ですが、そのホイッスルの音を観客全員  
で黄色のプラカードを高く掲げて選手に  
知らせるというものでした。初めはパラ  
パラとあげていきましたが、最後にはホイ  
ッスルと同時にスタンドが黄色に・・・  
選手と観客が一緒になってすばらしい  
事だと感動したニュースでした。K・Y